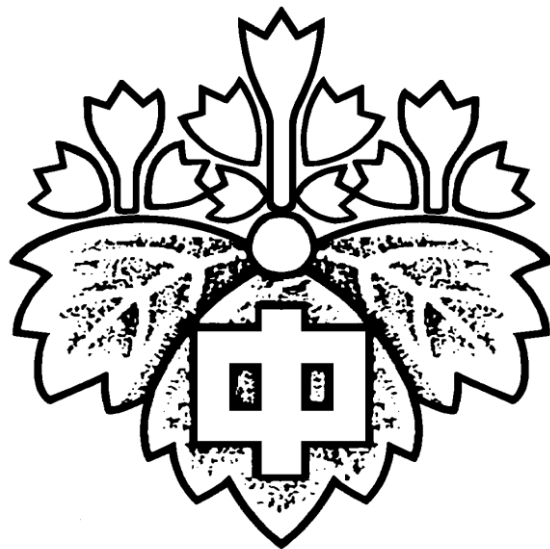


令和7年度

学習のねらいと進め方

各教科のシラバス

《第1学年》



大阪市立田辺中学校

教科	国語	学年	1	週当たり時間数	4
----	----	----	---	---------	---

1 教科概要（到達目標や目的）

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することをめざす。

（１）生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。

（２）論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。

（３）言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

2 年間授業計画（学習单元など）

学期	1 学期	2 学期	3 学期
内容	1：豊かに想像する	4：論理的に考える	7：読みを深め合う
	2：わかりやすく伝える	5：古典に学ぶ	8：視野を広げる
	3：ものの見方・感性を養う	6：情報を関係づける	9：振り返って見つめる

3 主な成績評価の方法

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価方法	テスト（知識・技能を問う問題）	テスト（文章理解力を問う問題）	提出物の内容
	小テスト	提出物の内容	発表
	プリント	作文	
	ワーク	暗唱	
		小テスト（文章テスト）	
		ワーク・プリント	

4 担当者からのメッセージ（学習方法など）

- ・授業では、自ら考え、周りの人と協働で考える活動を行います。
- ・様々な文章を「読む能力」を向上させるとともに、意思を伝えるための「書く能力」をしっかりと身につけましょう。
- ・家庭学習における課題は、定期的に提出してもらいます。毎週末には元気アップの課題として視写プリントを配布します。視写は、語彙力や書く能力を向上させることができます。最後まであきらめずに取り組みましょう。授業中のノートについては板書を書き写すだけではなく、授業のポイントや自身で気づいたことやクラスメイトの発言した内容などをノートの枠外にメモとして記入しましょう。

教科	社会	学年	1	週当たり時間数	3
----	----	----	---	---------	---

1 教科概要（到達目標や目的）

社会的事象の地理的・歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を育成することをめざす。

2 年間授業計画（学習单元など）

学期	1 学期	2 学期	3 学期
内容	【地理】世界の姿	【地理】アフリカ州	【地理】北アメリカ州
	【地理】日本の姿	【歴史】歴史の見方・考え方	【地理】南アメリカ州
	【地理】人々の生活と環境	【歴史】世界の古代文明と宗教	【地理】オセアニア州
	【地理】アジア州	【歴史】日本の原始時代	【歴史】平安時代後期
	【地理】ヨーロッパ州	【歴史】飛鳥時代	【歴史】鎌倉時代
		【歴史】奈良時代	【歴史】建武～室町時代
	【歴史】平安時代前期		

3 主な成績評価の方法

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価方法	小テスト	小テスト	課題プリント
	定期テスト	定期テスト	ノート
	課題テスト	課題テスト	ふりかえり
	課題プリント	課題プリント	小テスト
	ノート	ノート	ワークシート
			パフォーマンス課題

4 担当者からのメッセージ（学習方法など）

社会科は「地理」で現在の世界の人々の生きざまに、「歴史」で過去の人々の生きざまに触れることで、私たちはさまざまな価値観や考えの人とともにどのように生きていくのかを考える教科です。

授業では自分が考えたこと、感じたことを表現できる空間であることが大前提ですので、間違いをおそれず、どんどん手を挙げて積極的に発言してみましょう。

ノートは学習の記録です。黒板に書かれること以外にも、先生の話や資料などを工夫して書き込み、「あとから読んで分かる、オリジナルティあふれるノート」に仕上げてみましょう。

様々なテストは学習内容の理解と定着の良い機会となります。苦手意識を持たず、自分自身の目標に向けて精一杯努力してみましょう。

授業で感じた「疑問」や「問い」を大切に、自分で調べてまとめる自主学習にぜひ取り組んでみましょう。

社会科は「人生を豊かにする教科」でもあります。テレビやメディア、本、お出かけなど、いろいろな生活体験とのつながりを楽しんでください。また、社会科はほかの教科と重なり合う部分の多い教科です。教科にとどまらず、いろいろな事象や原理、原則、しくみに関心を持ち、理解を深め人生を豊かにしていきましょう。

教科	数学	学年	1	週当たり時間数	4
----	----	----	---	---------	---

1 教科概要（到達目標や目的）

数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

（１）数量や図形などについての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。

（２）数学を活用して事象を論理的に考察する力、数量や図形などの性質を見いだし統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。

（３）数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとする態度、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度を養う。

2 年間授業計画（学習单元など）

学期	1 学期	2 学期	3 学期
内容	1 章 正の数・負の数	4 章 変化と対応	6 章 空間図形
	2 章 文字の式	5 章 平面図形	7 章 データの活用
	3 章 方程式		一年間のまとめ

3 主な成績評価の方法

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価方法	定期テスト	定期テスト	振り返りシート
	小テスト・単元テスト	小テスト・単元テスト	ノート
	ノート	ノート	ワーク
	ワーク	ワーク	プリント
	プリント	プリント	

4 担当者からのメッセージ（学習方法など）

数学をなぜ学習するのか、数学を使って何ができるようになるのか、数学ができるようになるとうなるのか、それぞれの目標を持ち授業に参加しましょう。

授業を受けるときは、話を聞き、試して、自分ひとりでできるようになり、説明できるようになるように工夫しましょう。

授業を受けることは目的でなく、数学の力を身につけるための手段であることを意識できるようになりましょう。

ノートは理解を深めるために使用するものであり、授業中に気づいたことをメモするなど工夫しましょう。

家庭学習を大切にし、なぜ予習、復習、宿題をするのか意味を考えて取り組みましょう。

教科	理科	学年	1	週当たり時間数	3
----	----	----	---	---------	---

1 教科概要（到達目標や目的）

自然の事物・現象に関わり，理科の見方・考え方を働かせ，見通しをもって観察，実験を行うことなどを通して，自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 自然の事物・現象についての理解を深め，科学的に探究するために必要な観察，実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。
- (2) 観察，実験などを行い，科学的に探究する力を養う。
- (3) 自然の事物・現象に進んで関わり，科学的に探究しようとする態度を養う。

2 年間授業計画（学習单元など）

学期	1 学期	2 学期	3 学期
内容	生物の観察と分類のしかた	気体の性質	火をふく火山
	植物の分類	水溶液の性質	動き続ける大地
	動物の分類	物質の姿と状態変化	地層から読みとる大地の変化
	身のまわりの物質とその性質	光の世界	
		音の世界	
		力の世界	

3 主な成績評価の方法

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価方法	定期テスト	定期テスト	ノート
	実験レポート	実験レポート	ワーク
	ワーク		

4 担当者からのメッセージ（学習方法など）

- ・ 予習よりも復習を中心に学習してください。その日に習ったことはその日のうちにしっかりと整理しておくことが大切です。また、問題集（ワークなど）を解くことによって、自分の理解度を確認することができます。問題集を解いて、できなかったところをノートや教科書を見直して確認してください。
- ・ 実験では、積極的に実験に取り組みましょう。レポートなどは、できる限り実験の授業内で仕上げてください。
- ・ 提出物などは遅れることがないように早めに仕上げるようにしてください。

教科	音楽	学年	1	週当たり時間数	1.5
----	----	----	---	---------	-----

1 教科概要（到達目標や目的）

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

（１）曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするための必要な技能を身に付けるようにする。

（２）音楽表現を創意工夫することや、音楽のよさや美しさを味わって聴くことができるようにする。

（３）音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽を愛好する心情を育むとともに、音楽に対する感性を豊かにし、音楽に親しんで行く態度を養い、豊かな情操を培う。

2 年間授業計画（学習単元など）

学期	1 学期	2 学期	3 学期
内容	・ オリエンテーション	・ 合唱練習（合唱コンクール）	・ 箏練習
	・ 歌唱練習（発声練習）	・ 音楽鑑賞（グループワーク）	・ 歌唱練習
	・ アルトリコーダー練習	・ アルトリコーダー練習	・ 学年末テスト
	・ 音楽鑑賞（バロック音楽）	・ 音楽鑑賞（日本音楽・箏）	
	・ 実技テスト（歌唱・リコーダー）	・ 実技テスト（リコーダー）	
	・ 期末テスト		
	・ 合唱練習（合唱コンクールに向けて）		

3 主な成績評価の方法

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価方法	実技テスト	実技テスト	実技テスト
	期末テスト	ワークシート	学年末テスト
	ワークシート	観察	ワークシート
	観察		観察

4 担当者からのメッセージ（学習方法など）

・ 音楽の学習では、歌唱活動を中心に「アルトリコーダー」と「箏」の楽器演奏、そして様々な曲を鑑賞します。歌唱活動では、ひとり一人が持っている素晴らしい「声」を歌声にして、仲間とともに合唱曲に取り組みます。仲間と共に作り上げるハーモニーの美しさを感じられるよう、感性も磨いていきましょう。そして、鑑賞を通して様々な時代の音楽を鑑賞する中で、日本の伝統楽器である「箏」の練習に取り組みます。音楽の良さや美しさを言葉でも伝えられるようになることも大切です。

・ 音楽は、授業内で行う実技テストや筆記テスト、ワークシートの取り組み内容、授業中の発表で評価をつけます。

教科	美術	学年	1	週当たり時間数	1.5
----	----	----	---	---------	-----

1 教科概要（到達目標や目的）

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

（１）対象や事象を捉える造形的な視点について理解するとともに、表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。

（２）造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めることができるようにする。

（３）美術の創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を育み、感性を豊かにし、心豊かな生活を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。

2 年間授業計画（学習单元など）

学期	1 学期	2 学期	3 学期
内容	色相環	パターンアート	水墨画
	文字のデザイン	立体課題	オノマトペ
		美術史	

3 主な成績評価の方法

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価方法	作品	作品	ワークシート
	アイデアスケッチ	アイデアスケッチ	作品の進捗
	テスト	テスト	
		ワークシート	

4 担当者からのメッセージ（学習方法など）

1年生の美術では、制作活動の基盤として「主題」を見つけることを重視しています。なにを、どうしたいかなどを言語化し、表現に関する基礎的な内容を学習することで制作のイメージを広げていきます。

気持ちを込めて作ること、自分が表現したいことを掘り下げること、感じたことや考えたことを伝え合うことを大切に、取り組みましょう。

作品だけでなく、アイデアスケッチ、鑑賞レポートなども、評価の対象になります。

教科	保健体育	学年	1	週当たり時間数	3
----	------	----	---	---------	---

1 教科概要（到達目標や目的）

体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的な解決に向けた学習過程を通して心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

（１）各種の運動の特性に応じた技能等及び個人生活における健康・安全について理解するとともに、基本的な技能を身に付けるようにする。

（２）運動や健康についての自他の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。

（３）生涯にわたって運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かな生活を営む態度を養う。

2 年間授業計画（学習单元など）

学期	1 学期	2 学期	3 学期
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション ・集団行動、ラジオ体操 ・体づくり運動 ・新体力テスト ・陸上 ・保健、体育理論 ・期末テスト ・水泳 	<ul style="list-style-type: none"> ・水泳 ・陸上 ・体育大会の練習 ・器械運動 ・剣道 ・球技 ・保健 ・期末テスト 	<ul style="list-style-type: none"> ・陸上 ・ダンス ・保健 ・球技 ・器械運動 ・学年末テスト

3 主な成績評価の方法

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・各領域の運動の特性に応じた、基本的な技能を身につけている。 ・健康や安全について、基本的な知識を理解し、実践している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運動場面において、自己の課題解決に向けて考え、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。 ・健康や安全について、課題解決をめざし、科学的に考えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運動に関心を持ち、楽しさや喜びを経験できるよう、進んで取り組もうとしている。 ・健康や安全に関心を持ち、進んで学習に取り組もうとしている。

4 担当者からのメッセージ（学習方法など）

授業の進め方

●体育

- ・1年間を通し「ランニング、ラジオ体操、準備運動、トレーニング」を継続して行い、基礎体力の向上を図り、集団行動を身につけて安心で安全な集団を構築する。
- ・单元ごとの「めあて」に応じて、学習目標・計画をたて、授業の展開をする。
- ・ゲームなどを行い、記録をとりながら、練習の成果をたためす。
- ・ICTを活用した授業を実践し、より深い授業展開及び活動につなげていき、生徒に興味関心そして主体的な活動に取り組んでいく。

●保健

- ・教科書「中学保健体育」を中心に、教科書とワークシートを中心に学習していく。单元によっては、体育実技と関連して学習を展開し、主体的深い学び及び協働学習に取り組んでいく。

教科	技術家庭	学年	1	週当たり時間数	2
----	------	----	---	---------	---

1 教科概要（到達目標や目的）

生活の営みに係る見方・考え方や技術の見方・考え方を働かせ、生活や技術に関する実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 生活と技術についての基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。

(2) 生活や社会の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、表現するなど、課題を解決する力を養う。

(3) よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。

2 年間授業計画（学習单元など）

学期	1 学期	2 学期	3 学期
内容	ガイダンス	製図実習	木材加工実習
	身の回りにある技術	木材加工実習	材料と加工の技術と社会との関わり
	材料の特性と加工法		
	私たちの衣生活	作って楽しい布作品	私たちの消費生活
	衣服の働き	手縫いの基礎	消費者トラブルと対策
	衣服の選択と手入れ		住まいの役割と安全な住まい
	日本の衣文化		

3 主な成績評価の方法

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価方法	テスト	テスト	ワークシート
	作品	ワークシート	作品
		作品	

4 担当者からのメッセージ（学習方法など）

<技術分野>

- ・日常生活を送る上で「技術」が詰まっているモノはたくさん存在します。そのようなモノに触れてみましょう。技術が身近に感じられると良いですね。
- ・実習では様々な工具を使用します。怪我の無いように集中して取り組みましょう。

<家庭分野>

- ・日常生活の中で、衣食住や家族の生活等に関することなどに関心をもち、自分の生活を見つめ、その中から課題を見つけ、学習に取り組むようにしましょう。
- ・生活の自立をめざし、家庭生活をよりよく豊かに創造する力を身につけるため、学習したことを活かして、すすんで家庭でも実践するようにしましょう。
- ・家庭分野の学習については、実習等において準備物が必要になる場合があります。前日に持ち物の点検をするなどして、忘れ物のないようにしましょう。

教科	英語	学年	1	週当たり時間数	4
----	----	----	---	---------	---

1 教科概要（到達目標や目的）

①	・4技能を中心に主体的に学ぼうとする態度の育成を行う。 ・リスニングを毎授業行い、英語を聞き、要約する力をつける。また、その内容を英作文で表現し、発表する力をつける。ワークの使用により、基本文の反復練習による文法項目の定着を図る。 ・デジタル教科書を活用し、実践的なコミュニケーション能力を高める。
②	ペア活動やグループ活動を積極的に取り入れ、スピーチやパフォーマンステストを行う。 ・基礎学力の向上、コミュニケーションの力をつけるため、単語練習、暗唱テスト、アクティブラーニング、ICT機器の活用を行う。 ・C-NETによる授業の中で、考える力、生徒同士の協力、会話力の向上を目指す。

2 年間授業計画（学習単元など）

学期	1 学期	2 学期	3 学期
内容	アルファベット	三人称単数現在形	be動詞と一般動詞の過去形
	be動詞 / 一般動詞 / 助動詞	代名詞	過去進行形
	名詞	現在進行形	
	疑問詞		
	英語の歌 / 辞書の使い方		

3 主な成績評価の方法

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価方法	定期テスト	定期テスト	小テスト
	小テスト	小テスト	提出物の内容
	提出物の内容	提出物の内容	パフォーマンステスト
	パフォーマンステスト	パフォーマンステスト	

4 担当者からのメッセージ（学習方法など）

<p>小学校では、英語で話すこと、聞くことを中心に勉強してきましたが、中学校1年生で書くこと、読むことも勉強していきます。難しいこともたくさんあると思いますが、間違いを恐れずたくさん使って、たくさん身につけてほしいです。</p> <p>授業では、教科書を使って発音練習をすることがあります。デジタル教科書を使って家庭でも練習してみてください。</p> <p>※パフォーマンステストとはリーディングテストや、スピーキングテスト、作文、発表などを指します。</p>
--